

## 親切・丁寧 お買いものサポート

〈わ〉のお買い物サポーターには、ハートフル、親切、丁寧な対応をしていただき、ありがたい。認知度も少しずつ上がってきている。須磨パティオを管理する「OMこうべ」の事業課長代理・藤澤敬徳さんに、

9月11日、インタビューした。

須磨ニュータウンも高齢化が進む一方で、買い物が不自由な人が増えてきているため、「少しでもお手伝いできたら」という声が社内で上がり、神戸市社協を通じて〈わ〉にお願いした。11月と2月のテスト期間を経て、ことし、5月から来年3月まで本格実施している。毎週木曜日の売り出しの日にはサポーター2人が、パティオ1番館のホールに机と案内の看板を出して待機。チラシ30000部（月2回）とパティオライフ12万部（年7回）でPR、周知を図っている。サポーターは午前10時30分から16時まで。須磨区会中心に本部など計12人が登録。1人で買い物ができる人が大半で、サポートが必要な人には、付き添いがついて、サポートを希望す



る人は少ない。待機していても、仕方がないので、サポーターと改善策を話し合い、パティオ内を巡回、重い荷物を持っている人、杖の人、車いすや赤ちゃん連れのママにこちらから、声をかけるようにしてもらった。声掛けは1日に数件から10件、サポート希望はよくて4、5件程度という。

11日が当番の片山茂子さん（音文13期）と廣澤洋子さん（生15期）の奮闘ぶりを拝見した。声をかけても、遠慮される人が多く、苦戦。それでもめげず、95歳のおばあちゃん（写真⑤）に声をかけると、ほどなく打ち解け、お互いに笑顔で20分ほども話し込んでいた。ベビーカーに1歳くらいの赤ちゃんを乗せたママが洋品店で商品を見たそうにしているのを見つけ、サポート「大変、助かりました」と感謝され、館内で体調を崩し、座り込んだお年寄りを見つけ、救急車を呼んだこともある。お2人とも、お年寄りに声をかけ、心を通わせるだけでも、お役に立つのではないかと感じているという。（取材、写真 広報・永野知己）

## 竹の台小で伝統文化体験

秋晴れの10月1日、「伝統文化体験教室」が西区竹の台小学校で開催され、5年生71人が銭太鼓・大正琴・生け花・着物の着付けの4コースに分かれ体験しました。

10時45分から多目的ホールで児童と対面式。本日のお世話役は、各コースのスタッフ15人・竹の台地域委員会2人の総勢17人です。4つの教室に分かれて、伝統文化の授業を開始。1時間足らずの講



真剣な眼差しで銭太鼓に取り組む子どもたち

義・体験でしたが、子供たちは興味津々で真剣に取り組み、12時からの閉講式で、みんなの前で披露しあいました。着物の着付けのチームは、ちょっと恥ずかしそうに、ファッションショーを展開。



生け花に挑戦する男子

法被にたすき姿の銭太鼓と大正琴は、わずかの時間に一曲をマスターして、見事に演奏して大きな拍手をもらっていました。生け花は個性あふれる見事な作品に仕上がっており、玄関に一週間ほど展示されるそうです。校長先生からも「日本の伝統文化を教えていただき、感謝します」とお礼の言葉がありました。

竹の台小学校では毎年、伝統文化教室を開いており、こうした体験が日本の伝統文化を理解する一助になってくれればと思いました。スタッフの皆さんは、9時ごろには集合し大わらわの半日でしたが、子どもたちの笑顔に疲れも吹き飛んだ様子でした。

（取材、写真 広報・岡本絢一）